

11 番 児 玉 受付番号第3号、質問議員11番、児玉洋一でございます。一般質問通告書にのっとりまして質問をさせていただきます。

件名、「山北町第6次総合計画策定に向けて」。

町の最上位計画に位置づけられる総合計画。町では昭和45年から先の10年間を見据えた初めての総合計画が策定されて以降、令和5年度には第5次総合計画が終了し、令和6年度からはいよいよ第6次総合計画がスタートする。

この10年を振り返ってみると、安倍政権の経済政策「アベノミクス」が始動し、消費税が5%から8%、10%と段階的に引き上げられ、時代が平成から令和へ新たな幕が開けた矢先には、全世界を脅かす感染症パンデミックと急激な社会の変容に加え、急速に進展するデジタル化や脱炭素化、SDGsへの取組など社会環境は大きく変革をしてきた。

一方、想定規模を上回る大規模自然災害や富士山噴火など、災害に強いまちづくりはこれから大きなテーマとなる。今後、この先の10年を見据えた中で、これまでの総合計画とは異なるより実効性の高い第6次総合計画が必要であると考え、以下の質問をする。

1、計画策定までのプロセス及び現在までの進捗状況は。

2、策定の基本となる「バックキャスト」手法を取り入れることで、従来の総合計画と何がどう変わるのか。

3、第5次総合計画の検証とその成果をどう捉えているか。

以上です。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、児玉洋一議員から「山北町第6次総合計画策定に向けて」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「計画策定までのプロセス及び現在までの進捗状況は」についてでございますが、町では現在、令和6年度から10年間のまちづくりの方向性を示す、山北町第6次総合計画の策定に取り組んでおります。策定に当たりましては、学識経験者や町内の各種団体から選出された代表者及び公募委員で構成する総合計画審議会において、町がこれまで取り組んできた各種施策事業の成果や進捗状況について御審議をいただくとともに、

町民の皆様の御意見を計画に反映させるため、町民アンケート調査等を実施いたしました。また、初めての試みとして町民の皆様や中学生を対象としたワークショップを開催し、山北町の将来について自由な発想で御意見をいただきました。

これまで総合計画審議会を5回開催し、町を取り巻く課題の整理や、目指す町の姿を明らかにする将来像、目指すべき人口規模を示した将来人口フレーム等を記載した基本構想について御審議いただくとともに、基本構想を実現するために必要な施策事業について記載した基本計画について御意見をいただいているところであります。

今後のスケジュールといたしましては、12月末に6回目の総合計画審議会を開催し、基本構想及び基本計画の案を取りまとめた上で、来年1月以降にパブリックコメントを実施し、その結果を踏まえて2月に審議会から答申を受け、3月定例会において基本構想の議決をいただくことを想定しております。

次に、2点目の御質問の「策定の基本となるバックキャスティング手法を取り入れることで、従来の総合計画と何がどう変わるか」についてですが、バックキャスティングとは、目標とする未来像を先に描き、それを実現する筋道を未来から現在へと遡る手法のことです。

これまでは過去のデータや実績などに基づいて、実現可能と考えられることを現在から未来に向けて積み上げていく「フォアキャスティング」の考え方が一般的でしたが、エネルギーや環境問題などSDGsに関連するような社会的課題については、将来的な変化を予測することが難しく、また大きな変化に対応することが困難であることから、第6次総合計画の策定に当たっては、「バックキャスティング」の考え方により策定を進めているところで

す。

町では、「10年後に目指すこうありたいと考えるまちの姿」を将来像として掲げるため、町民の皆さんに「将来どのようなまちでありたいか」を様々なアンケート調査やワークショップを通じてお聞きし、まとめた結果、新たな将来像を「みんなでつくる 心豊かに暮らせるまち やまきた」とする方向で、基本構想の策定を進めております。

一方、「バックキャストिंग」の手法を用いて計画を策定する場合のデメリットとして、創造する未来の姿が抽象的になることや、達成するためのハードルが高くなることが考えられることから、常に現状を把握し、臨機応変に見直しを行うなど柔軟性を持って計画推進に取り組むことも必要と考えております。

次に、3点目の御質問の「第5次総合計画の検証とその成果をどう捉えているか」についてであります。第5次総合計画後期基本計画の評価検証につきましても、計画に位置づけられた施策事業ごとに「進捗率」「実施状況」「必要性」の3点について評価検証を行いました。

中でも、「進捗率」については位置づけられた事業数427事業のうち「80%」が最も多く172事業。続いて「60%」が104事業、「100%」が89事業、「40%」が33事業、「20%」が18事業、「ゼロ%」が11事業となり、全体の平均値といたしましては、71.6%という結果になりました。

しかしながら、第5次総合計画後期基本計画の期間中は、新型コロナウイルス感染症による急激な社会変容や国内外における社会情勢の変動等による物価の上昇、エネルギー価格の高騰など先行きが見通せない状況が続いていることから、中止や縮小を余儀なくされた施策・事業や、解決できなかった課題等も数多くあると認識しており、それらについては新しい計画へとつなげていく必要があると考えております。

また、総合計画審議会においては、計画に位置づけられた事業数が多いことで、評価検証が甘くなってしまっている部分があるのではないかとといった御指摘や、計画策定時だけでなく評価・検証を行う必要性があるのではないかとといった御意見もいただいておりますが、今後、本町に合った評価・検証の手法について検討してまいりたいと考えております。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 児玉でございます。

今、御答弁いただきましたけれども、この6次総合計画策定に向けては、そもそも今回の御質問に書かせていただいた背景ございますが、先ほど来からありますように、なかなか策定までのプロセスの中で議会が直接的に介入するといったところは、基本的には計画審議会の皆様のほうで中身の部分に

についてはお任せをしている部分といったところもございますので、なかなか各論の部分は議会のほうとしては追求なり質問なりというのができないわけですが、そうはいっても10年先の一番重要なこの計画に関して、一町民、一議員といったところの視点から、やはり町の将来像がどう描かれていくのかというのが非常に重要であるというようなところも考えて、今回質問に立たせていただいたわけです。

先ほどからありますように、3月には基本構想が議会のほうに議決を諮られるというようなストーリーでございますので、シナリオでございますので、それまで一般質問ができるのは、おそらく今回が最後かなといったところもありますので、この一般質問の時間が有意義にやり取りが行われればありがたいかなと思います。

それでは、1つ目の質問のほうに移っていきますけれども、そもそも、こちらの総合計画、前回議会のほうに説明があったのは9月の全員協議会での説明でありましたけれども、いわゆる総合計画の構成ですね。この辺が基本構想と基本計画の2構想に分かれているよというような話でございました。この辺りがちょっとやはり分かりにくいのかなというような部分もございまして、やはり町民にさらに分かりやすく伝えていくためには、どのような形で説明をしていったらいいのかといったところがありますので、改めて基本構想、基本計画、この2段階、2層構造というんですかね。ここの部分の説明を改めてお願いをしたいと思います。

議 長
企 画 総 務 課 長

企画総務課長。

今回の6次計画の全体像ということなんですが、第5次総合計画に引き続き、基本構想及び基本計画の2層構造としております。これにより、なぜ2層構造かといいますと、全体の構成を簡素化し機動的で柔軟な予算配分ができるということを言われております。ですから、山北町も第5次総合計画から2層構造としております。基本構想が上にあるんですが、基本構想の中では、まちづくりの課題や将来像、あと人口フレーム、重点プロジェクト、そういうものを記載しております。

将来像については、今回は「みんなでつくる 心豊かに暮らせるまち やまきた」といたしました。10年後まで心豊かに暮らせる山北町ということで、

これは総合計画審議会のほうで決めていただいたんですが、このようにさせていただきました。その中で、あと人口。これは町民の方も非常に興味を持つところだと思うんですが、人口については令和15年、令和15年が目標の10か年先になるんですが、その人口が、残念ながら8,100人ということでちょっと減少していく。8,100人ということで設定のほうをさせていただきます。

あと、重点プロジェクト。これについても、第5次総合計画から取り入れたものなんですが、個々の基本計画にそれぞれ福祉の分野・教育の分野・防災の分野等は個々に出てるんですが、重点プロジェクトによって、それらをいくつかピックアップして優先的に進めようということで重点プロジェクト設けてるんですが、今回その重点プロジェクトを二つ作りまして、一つが関係人口・定住人口プロジェクト。もう一つが魅力向上プロジェクトということで、二つを重点プロジェクトとして設定させていただきました。それが主に基本構想の中身で、基本計画については、今回六つの分野。六つの分野というのは、健康福祉・教育文化・生活環境・産業振興・都市基盤・行財政、この六つについてそれぞれ細かく記載させていただいております。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 2層構造の部分についての御説明いただきました。

先ほどありました第5次総合計画から実施計画はなくなったといった、基本的にはというか、まだ全国の自治体でも半分ぐらいが3層構造。要は、基本構想があって基本計画があって実施計画がある。それぐらいの3層構造で行っている総合計画が多いようですが、第5次総合計画、私もその当時は議員でもなかったもんですから、第5次総合計画の際に実施計画をなくしたといったところの、立てない理由、先ほどちょっと説明もありましたけれども、その辺りの背景なりをちょっと改めて説明を願いたいといったところと、基本的な作り方。第6次総合計画の作り方というのは、やはり第5次総合計画の作り方と同様なのかといったところも改めて確認をさせていただきます。

議 長 企画総務課長。

企 画 総 務 課 長 今、2点質問いただきました。

まず、1点目の実施計画を立てない理由ということで、これ今児玉議員も

おっしゃったとおり、第5次総合計画から、10年前からですね。10年前からこの実施計画はなくなりました。というのも、実施計画は基本計画に定めた施策に従って、具体的な事業内容、細かい事業内容を明らかにして、例えば予算の項目の事業ですね。そういうものを出すものであって、予算編成の指針にもなるというふうに導入している市町村は使っているようです。

一方で、長期的な計画を策定しても、ですから10年間の実施計画ですね。細かい事業を載せても、環境の変化が激しい現在ではなかなか実効性が確保できないという、そういう事例も発生しております10年前になくなるといふことにいたしました。また、社会情勢に応じて計画にない施策を適宜適切なタイミングで予算化するということも、なかなかできなくなります。実施計画に載せてないから駄目だよと言って。

例えば、先ほど児玉議員の質問であった、例えばコロナで変わったときにその事業がすぐに予算化できるかという、この実施計画があると、なかなか難しい部分もあるということをおっしゃっています。あと、これ費用の問題なんです、実施計画までつくとそれなりのボリュームもあります。庁舎内、庁内の会議も何回もやらなければいけなくなりますし、費用の面、費用の面でも非常にちょっとかかるということで、先ほど児玉議員も言われたとおり、半分ぐらいの市町村では今もう実施計画はなくしているというような形になっています。

あともう一点、御質問の5次計画と6次計画の大きな違いということなんです、基本的には質問でもあったバックキャスティングですね。今まではフォアキャスティング。これから10年先がどういうところで町であったらいいかというフォアキャスティングの方針だったんですが、今回バックキャスティングで、例えば環境問題だったら50年先はこういうものにしたい。水力発電とかをやりたい。そのために、じゃあ10年後はどこまで進んでればいいのかというような方法で取り組んでいるんですが、なかなかその辺もはっきり見えないというのは議員さんの意見じゃないかと思うんですが、一応形のつくりが、だから将来から戻ってきて、じゃあ10年後ということで、一応つくるような形で取り組んでおります。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 児玉です。

非常に答えにくそうな答弁かなと思いますが、今の答弁だと、これ後の質問にもなるんですけど、バックキャストイング手法って、やっぱり取り入れられないんじゃないかなと思うんですよね。言ってることが、多分フォアキャストイングなんですよ。だからフォアキャストイングでいいと思ってるんですよ、僕は。やっぱりバックキャストイングでやるんだったら、実施計画があつて、単年度ごとにこれをやる、あれをやるか、あれをやる。で、できたのかできないのかを検証をしていくというのがバックキャストイングだと思うんですけど、今の御答弁ですと、課長の御答弁ですけど。後で町長の御意見いただきたいと思いますが、今の御答弁の言い方ですと、単年度ごとに柔軟に対応していきますってなっちゃうと、それこそ、まさにフォアキャストイングで将来を見据えてないんじゃないか。何が起こるか分からないから10年後の将来は描かないみたいな感じにも捉えられちゃうんじゃないかなと思うんですね。

ちょっとこの辺りは、後ほど2番目の質問で、さらにちょっと行きたいと思うんで。まず今のところの御答弁は、今課長に御答弁いただきましたが、町長のお考えというんですかね。この総合計画のつくり方、この辺りについて、計画審議会のほうにも諮問をしているようですから、まず御意見といいますか、お考えがあるかといったところをお聞かせいただきたいです。

議 長 町長。

町 長 私としては、私が初めてつくった第5次のときに、こういうようなまちづくりをしたいというような中でつくっていただきました。そして、第6次総合計画もそういうような中で、今キャストイングの手法というようなことでしたけども、基本的には、大きな何ていうんですか、変化というのは、私の中では基本構想の中にあるような、皆さんで決めていただいたまちづくりというのは基本的な考えでございますので、それらは、私の中では変わってないというんですか。皆さんと同じような意見でつくり上げていただくというようなことでございますから、その手法については審議会のほうで審議していただいて、それに合うような総合計画にしていいただければありがたいなというふうに考えています。

議 長 児玉洋一議員。

今町長のほうから、あまり手法にはこだわらないというようなお考えなのかなというふうに受け止めました。言うように計画審議会のほうで議論はなされているようですし、審議会に提示をする内容は、おそらく外部コンサルなんかも一緒に入れながらつくり上げられた素案というんでしょうか。そういったものが審議会のほうに諮られるといったわけであると思いますけど、これ令和4年11月にプロポーザルでといったところで外部コンサルが契約締結になっていますけれども、外部コンサルの委託先ですね。この辺の具体的な業務内容をちょっと改めて伺いたいですけれども。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長 支援業者の業務ということで。すみません。細かいことなので、私のほうから答弁させていただきます。

この支援業者を決定するに当たって、プロポーザルを行いました。3者から応募がありまして、プロポーザルして、そのうちの1者にということで、昨年、令和4年の11月ですね。令和4年の11月に決定させていただきました。契約年度は令和4年度、5年度の2か年ということで契約のほうはさせていただきました。

業務内容につきましては、一応11項目出させていただきますして、その11項目を支援してほしいということで、じゃあそれをいくらでやるということで1者が決まったんですが、その11項目なんですけど、1つ目が基礎調査等の実施・分析、これは令和4年度にまずやってもらう部分で。2つ目が町民アンケート調査、これも4年度。3つ目が、町民等の参加を得る手法の提案及び企画運営支援。これは2か年ということになります。あと、現行計画の評価・検証。これも2か年。基本構想案の策定支援、これも2か年です。基本計画案の策定支援、これも2か年。各種会議の運営支援、これも2か年ですね。あと、SDGsの推進に関する支援ということで、これも2か年。これについては、全職員がSDGsの研修ということで一度受けさせていただいております。次期計画の進捗管理方法及び各種指標の提案ということで、これは令和5年度分。あとパブリックコメントの実施支援ですね。最後に計画書の概要版の作成、あと計画書の印刷ということで、全部で11項目を支援、

業務委託ということで行っております。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 そうすると、今御説明のありましたアンケート作成とか、もちろん構想とか素案づくりのみ以外にもアンケートの作成とか集計とかそういったところもやっているよというような話。あと、おそらくワークショップなんかも開催されているようですので、そういったもののファシリテーター的な役割なんかも御意見・アドバイスを入ってるのかななんていうようには受け止めましたけれども。

まず、この町民アンケートって、結構興味深くて、私も前回の資料、それから計画審議会の議事録なんかをちょっと拝見させていただきましたけれども、かなり細かい部分まで町民アンケートはわたっているようです。3,000部の発行で回収が1,271件といったところで、42.4%といったところの回収率だったようですけれども、この辺りの町民の声、アンケート結果含めて町としてどう受け止めているか。どういった声が多かったのかとか、どういった声がこの6次総合計画に活かされていくのかとか、こういったところ、まず町民アンケートの結果をどう捉えているかについて、町長がもしこのアンケート結果を見てどう感じられたか。その辺りちょっとお聞かせいただければと思います。

議 長 町長。

町 長 私は、今までも第5次するときも、当然アンケートは住民の人に無作為で出してやったんですけども、今回はそういうだけでなく、実際に越して来た人のアンケートも取ってほしいということでやらさせていただきました。それ以外にも、若いワークショップですか。そういったようなことで中学生とかそういったようなこともやらさせていただきました。

ですから、今、山北町には昔からずっと住まわれてる方もいらっしゃいますし、また移住して来たり様々な関係で山北に来られた方もいらっしゃいます。そういった方の意見というんですか、山北のいいところを。なぜ移住しようと思ったのかということは、非常にこれからの人口減少社会について、非常に大事なことではないかというふうに思いましたんで、そういったようなアンケートをとらせていただいたということでございます。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 ワークショップって話もありましたけれども、初めてですかね。このワークショップ、町民ワークショップを開催したという。町民ワークショップって非常にいい取組かなと思ってたんですが、当初計画は20名と。実際は4名だったといったところもあります。いいんですよ、4名でも。それを1回で終わらせるんじゃなくて、何か継続的にやっていっていろいろ声を聞くといったところも、これからの6次総合計画のためだけにワークショップをやるという考え方ではなくて、何か継続的にこういう声を聞いていったらどうかと思うんですが、その辺の考え方ってどうですかね。

議 長 企画総務課長。

企 画 総 務 課 長 町民ワークショップ、今回開いたんですけど、今後もということなんですが、今回総合計画をつくるに当たって、初めて行いました。ホームページとかTwitter、あんしんメールで非常にPRしたんですが、そんなに応募者20名達せずに6名の方がそれでも参加したいということで表明いただきました。ただ当日欠席が2名おられまして、4名で行いました。

内容的には、まずはSDGsの説明をさせていただきました。その後4名の方に10年以上先を見据えたこんな町であってほしい。山北町はこんな町であってほしいということで、それぞれお話をさせていただきました。その中で、山北町の未来として生きやすい、生きていきやすい、そういう町になったらいいなということでした。

町民が町に関心を持てる町。あと結構若い方、若いっていっても30代、40代の方だったんですが、高齢者と若者の交流ある町。ですから、多分30代、40代なんで70代、80代の人を指してるんだと思うんですが、従来と、そういう人たちじゃなくて、例えば30代、40代の人もうまくそういう80代の人と、自分のおじいちゃん・おばあちゃんじゃないんですが、隣の人なんだけどそういう人とうまくやって生活をしていきたいと。そういう人たちの言うことだけ聞いてやるんじゃなくて、意見も言っていながら生活ができる町がいいというような意見がありました。ですから、本当にこのワークショップをやって、私も初めて聞くような話もありました。

あと、「山北に何でいるの」と言うと、「山もある」という、これは、私

は今までそういう感覚だったんですが、人によっては「海も近い。だからこの場所がいいんだ」というようないろんな意見もありましたので、これについては本当にやってよかったと思いました。

ただ、これを、じゃあ毎年できるかという、ちょっと今は何とも言えないんですが、本当にワークショップはやってよかったというような印象が残っています。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 毎回の開催は難しいにせよ、何らかの機会でこういったワークショップ的なことというのは、何やら最近の新聞とかあれでは、記事では、何か近隣の市町村では何か町民ワークショップみたいな、市民ワークショップみたいなもの開催しましたみたいなニュースで取り上げられてましたんで、何かそんなようなことをこれから少し考えていっていただければいいかななんていうふうには思ってます。

さて、2つ目の質問で、バックキャストिंगですね。この辺り、個人的には非常に興味があるんです。今までの第5次総合計画とのつくり込み方とは、おそらく変わってくるものだろうと大きな期待をしておりましたが、12月1日にですかね。ちょうどこの間先週に、ホームページに審議会の資料からアップされたようですけれども、そこで総合計画の素案が出て、基本計画の素案が出てきてましたけど、先ほど町長、手法にはこだわらないとおっしゃってましたが、バックキャストिंगが何か全然伝わってこなかったというんですかね。その辺が、どこがどうバックキャストिंगなのかなと。

第5次総合計画の基本計画ありますけど、これ一語一句文字変わらなかった内容なんかもあったり、つくり方もほとんど一緒だったんですよ。この辺りが、どの辺がやっぱりバックキャストिंग取り入れてるのかというのが、まず1つ目の質問と。そもそも審議会の議事録見ると、これは審議会のメンバーがどうのではないんですが、バックキャストिंग手法について、何かあまり議論が展開なされていないような気がしているんですが、この辺り審議会の中でもバックキャストिंगに関して、何か議論が進められたのかどうなのか。この辺をお聞かせいただきたいと思います。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長

先ほども答弁したとおり、フォアキャスティングとバックキャスティング、その違いなんですけど、まず2つ目の質問の審議会でバックキャスティングについて、しっかり議論がされてるかということなんですけど、冒頭、一番最初の会議のときにバックキャスティングで進めていくよという話はさせていただいて、それは特に異論もなく進めております。じゃあ2回目、3回目、4回目でその辺をもっと深掘りしてたかといいますと、なかなか実際はしないで淡々と審議のほうを進めているような状況になってます。

今の最初の質問のバックキャスティングはどう表れてるかということなんですけど、なかなかその辺がうまく表現できてないという部分がありますが、基本構想の将来像。さっき一番冒頭申し上げたんですが、今回「みんなでつくる 心豊かに暮らせるまち やまきた」にいたしました。これが、将来的にも10年先ではなくて、もっと先を見据えた中でも伝わっていくキャッチフレーズかなと。もう一回言いますと、「みんなでつくる 心豊かに暮らせるまち やまきた」。ここが一番将来的にも使えるフレーズということで出るんじゃないかと思います。

中身の基本計画の部分ですね。ここの部分が、やはりさっき一番最初は環境問題で50年先がどうだからその10年前の数値というのは、なかなか出し切れてないというのがちょっと現状ということで答弁のほうさせていただきま

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 おそらく、私が目にした議事録は10月の末の議事録。それでこの間11月27日にも審議会やられていて、この後12月にもおそらくやられると思うので、審議会の中で素案なり形づくりというんですかね。計画のブラッシュアップはこれからどんだんなされると思うので、その部分、中身の部分は先ほど冒頭申し上げましたとおり、一議員がなかなか介入できる範囲ではないとはいえ、しっかりとこのバックキャスティングの手法を取り上げつつと、それを基本に入れつつといったところもあるんでしょうから、ここはしっかり進捗を事務局サイドとしても見ていただければかなというふうに思っています。

一つ提案ではないんですが、今SDGsとか脱炭素とかDXとかGXとか、

この10年で新しいワードどんどん生まれてきたと思うんですよね。先ほど町長もドローンとかお話ありましたけど。SDGsのことについては、今日、私バッジつけてきましたけど、これ中学生のうちの子どもに「このバッジ、何だ」って。「SDGs」、もう分かるんですよね。もう中高生、小学生も今そうですかね。このバッジが意味するもの分かってるようなので、SDGsのことについて、2030年まで持続可能でゴールの設定しなきゃいけないって出てるんですよ。まさにこの第6次総合計画は、もう2030年をまたぐわけですから、総合計画の中にSDGsのゴールがある程度記載されてたほうがいいんじゃないかなと思っていて、あえて、ここで提案なんですけど、私、審議会のメンバーでも何でもないので何とも言えませんが、新しいこの第6次総合計画の中に、いろいろやっぱり作り込み方はもうあんまり変わらないと思うんで、例えば事業であったり施策であったり、こうやって打ち出される脇にSDGsのロゴをこの事業、この政策についてはこのSDGsの17個の目標のうちここに掲げられるんだよみたいなのが、少しでもマークがあるだけでもちょっと印象が違うんじゃないかなと思うんですけど、これは提案です。この辺り、お考えどうでしょう。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長 総合計画、今こういう形で途中までつくってるんですが、この中の今児玉議員が言うのは、基本計画の部分でこの事業はどこに該当するかということだと思います。今現在、まだつけてないんですが、できる範囲でやれば、御提案のとおりやっていきたいと考えております。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 少しでも、ちょっと形を第5次と変えていきましょう。

実施計画をなくしたと先ほどありましたけども、やはり先ほど私も申し上げましたとおり、バックキャストである以上、実施計画があったほうが進捗管理がしやすいんじゃないかなと思ってます。でも、やはりなかなか作り込み方は難しいというような御答弁もありました。今後の、これも次の質問につながっていきますけれども、こういった進捗管理。この辺りについては、これからどういうようなお考え、何か答弁の中でもいろいろ評価・検証に対して手法を検討していきたいというような御答弁もありました

が、その辺どんな方法を今考えているのか。この辺り、御答弁がありましたらお願いいたします。

議 長
企 画 総 務 課 長

企画総務課長。
進捗管理、これ行政評価にもなると思うんですが、今現在大きくやっ
てるのがこの総合計画を策定する都度。ですから、大きくやるのは5年に1回。
そのほか予算編成時に個々の事業ということで行ってます。ただ、大々的に
やってるのは5年に1回。これを見玉議員は、もうちょっと頻繁にやったら
という話だと思います。これについては、今回の6次総合計画をつくるに当
たって、審議会の中でも非常に毎回毎回検証方法ということで議論をされて
ます。もっとやったほうがいいんじゃないかと。答弁でもあったように、今
427、第5次総合計画はあります。この事業をもっともうちょっと減らしたほ
うが職員もしっかり検証ができるんじゃないかと、そういう意見も出てお
ります。ですから、この検証方法については、速やかにほかの市町の先行事
例もちょっと研究しながら、調べながら、早急に導入のほう、図っていき
たいということで考えております。

議 長
11 番 児 玉

児玉洋一議員。
今、前向きな御答弁をいただきました。
私も、計画審議会のメンバーの中でも、何か議事録にもありましたけれど
も、要は身内に甘いんじゃないかと。答弁にもありましたね。何かそうい
った御意見があると思うんですよ。やっぱ行政評価で自分で立てた事業に対
して自分で評価しているんで、それは甘くなりますよね。だからこそ、第三者
機関であるとか、それこそ審議会メンバーに継続してちょっと見てもらう。
または、本当に第三者、委託業者、コンサルでもいいんですけど、そうい
ったところに進捗管理を促すとか、そういったところでも一つ何か新しいこの
評価方法になるんじゃないかなとは思いますが、その辺りは継続してちょ
っと御検討いただければかなと思います。

引き続き、3つ目のほうの質問に移っていきますけれども、やはりこの一
番重要なのは検証。第5次総合計画の検証があつて、それが第6次にどう生
かされていくのかといったところ。そこで上げられた成果をどう捉えている
かといったところだとはやっぱり考えているわけです。先ほどちょっとあり

ましたが、やっぱり多いんじゃないかなと思うんですよ。427、第5次のときはあったんですよね。第6次はいくつになるかといったところですけど、まずそどうなんでしょう。第5次は430近く。427の事業があって、この辺が見直されて、同等の事業となるのか。少し減らしていくような考え方があるのか。その辺りはどうですか。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長 事業数、第5次は427でございました。今審議している事業数は372事業です。なるべく減らすようにしてるんですが、それでも372。ただ、これについては、まだ審議会、もう一回12月にありますので、多少増減をする可能性もあります。427から372に減ったという回答でいいと思うんですが、現在372となっております。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 多い少ないは、これは計画審議会ですっきり議論をしていただくといったところにして、答弁の中でも80%、427事業のうち80%が172、60%が104と。20%とかゼロ%の事業なんかもありますよという話になってますけれども、この辺がどうなのかなというふうに思ってるんですけど、これは何。全くこの10年間で全く手をつけなかったというような解釈になるんですか。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長 今回、これ役場内の調査で11の事業が進捗ゼロ%ということで答弁させていただきました。いろいろ理由はあるんですが、とにかく議員が言うとおりに、何にもつけなかった、手をつけなかった、つけられなかったというのが11ということです。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 その辺り、見直しも図られるのかなと思いますけれども、一方では、進捗率は80%だけでも第5次で終了。すなわち第6次には計画にも載せない案件もあるというような記載もありました。

個別の案件に入っていくのは大変恐縮なんですけれども、これは上下水道課長になるんでしょうかね。例えば、合併処理浄化槽の整備。この間、私一般質問しました。高度処理型の合併処理浄化槽の計画的な推進は、高度処理費の財源がないためを理由に終了って書いてあるんですよ。第6次の計画に

はもう一切なくなっちゃってるんですよ。これ、三保地区は結構ナーバスですよ。この間、町長と語る会、この話題で持ち切りだったと思いますけど、あとは町設置型浄化槽事業検討会も、一応第5次100%で終了で、第6次なくなっちゃってるんですよ、全部。やっぱりこういうところをなくしていっちゃうと決まっちゃったのという感じになっちゃうんで、引き続き、やっぱりこの辺は県に強く要望を求めていくという姿勢を示すためにも残していく必要があるんじゃないかなと思うんですけど、その辺りはどうなんでしょうか。

議 長 上下水道課長。

上下水道課長 おっしゃられるとおりでとは思んですけど、ただ、神奈川県さんが今その辺の姿勢を示していただけないので、今の段階で載せられるかというその辺がちょっと非常に厳しい時期に来てます。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 ちょっと御配慮いただければなと思うレベルにとどめておきます。

あとは、やっぱりさっきの質問でもちょっとさせていただいたけれども、やはりこの分析評価ですよ。担当課とか庁内で実施しているってことをやっぱ違和感があって、この辺り外部機関に検証という、先ほど少し課長のほうから御答弁いただきましたが、この分析評価が大事になってくるといったところで、外部評価の部分について、まずは町長の先ほどの課長の答弁のフォローではないんですが、町長のお考え、外部評価、この辺りどうですか。

議 長 町長。

町 長 評価については、様々なことはあるというふうに思っております。外部評価でどのような検証をしてやるかということはあるというふうに思いますけれども、私が一つだけこの総合計画について、自分としては若干いつも第5次するときもそうだったんですけど、国のほうの補助金が総合計画に載ってないと全然駄目なんですよ。ですから、どうしても総合計画に載せるあれが多くなってしまうのは、どうしてもやむを得ないのかなというふうに思ってます。ですから、本来全部やるつもりで総合計画つくるんですけども、10年間のうちに国のほうの政策の中で様々な補助金がつくれますけれども、その中でもやはり総合計画に載ってないということだけでもう却下というようなことがございますので、そういった意味では私は総合計画の作り方というのは、

その辺が若干歯がゆいというんですか。そういったところはございます。そういう中での評価というふうに私は捉えております。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 これ平成23年に、当然行政御存じだと思いますが、総合計画の基本構想部分、この辺は議会議決じゃなくてもいいよという。要は、義務がなくなったといったところになってくると思うんですけど、よその自治体では、まだ数%ですけれども、総合計画のつくり込み自体をちょっとリニューアルというか、もう大々的に変えてるようなところもあるようです。その辺のお考え、今後も含めてになってきますが、今は第6次総合計画粛々と出来上がってくる段階ですので、総合計画の在り方自体を見直すといったようなお考えというのは、町長の中ではどうなんでしょう。あるんでしょうか。

議 長 町長。

町 長 先ほども言ったように、全てが今の行政の取扱いというのは、全て何とかプラン、何とかプラン、総合計画があってないと、もう一切合財門前払いというような形になってるんです。ですから、県は、我々の町村会でもよく議論になりますけど、こんなに計画つくっちゃって、もう本当はつくりたくない計画もいっぱいあるんですけども、やむを得ないというか、そういう中で最上位になる総合計画ですので、どうしても、ボリューム的には多くなるのかなというのが私の考えておりますけど、総合計画は総合計画として、今のシステムでは、少ないともう全て駄目ですから、もう少し下の何十とあるプランは、本当は要らないのもあるんじゃないかなというふうに、個人的には思っております。

議 長 児玉洋一議員。

11 番 児 玉 おそらくその辺も社会の状況とか、いろいろ他の自治体の事例とかも含めて、いろんなところで総合計画のつくり込み方とか、そのひもづけ、県・国のひもづけなんかもどこかで見直されてくるんじゃないかなと思うので、その辺り、ぜひ柔軟に対応していただきたいと思います。

私も、今日の一般質問を50分というバックキャストでちょっと考えてましたので、50分をゴールにするといったところもう時間になりましたんで、そろそろ最後の質問というか、させていただきたいと思いますが、や

やはりこの議会として、こうやって公式に議論できる場というのは、もうなかなか少ないとは冒頭に申し上げましたとおりです。ぜひ、審議会のほうには今後も引き続きいい計画ができることは願ってやみませんけれども、改めて最後に町長、「みんなでつくる 心豊かに暮らせるまち やまきた」とこういうスローガンを掲げていただきました。10年後の将来がこのバックキャストイング手法を用いて、どのような山北町になっていくのかというのが一番重要だと思いますので、10年後の山北町の将来像、グランドデザイン、ぜひお聞かせをいただいて、私の一般質問を終わらせていただきます。

議
町

長
長

町長。

ここの何ていうんですか、ものは「みんなでつくる 心豊かに暮らせる やまきた」というのは私の考えも取り入れていただいて、また市議会で決めていただいた件でございます。この中で、審議会の皆さんにもよく議論になったのが「持続可能な」という文言を入れるか入れないかということで、非常に悩んだそうでございます。

私としては、やはり今、山北町が抱えてる人口減少とか、あるいは山北町がどういうふうに来上がったのか。今の山北町が川村郷から共和村とか、三保村、清水そういった平山も含めて合併してできてきたという歴史がございます。そういった歴史を踏まえた中で、その地域が10年後もその土地の文化を残しながら存続していけるような、そんなまちづくりが、そんな将来像が描ければいいなというふうに思ってます。

その中で、一番、私としては今度スマートインターの新東名のほうで玄関口が一つ新しくできるというのは、非常に山北町にとっては大きなことではないかなというふうに思っておりますので、この玄関口をどのように生かしていくか。そういったことが今後数十年にわたっての山北町の課題だろうというふうに思っております。近くで見れば、開成町は小田急線の駅がなかった。それを駅ができたから今のような形になってきた。山北町もやはり、ただ、できただけでは駄目で、それをどういうふうにつなげていくかというのが大事なことで。これを1回でこうすればいいというのは私はないと思っております。常につくり続けるということをしなければ、皆様にその現価が廢れてしまうというふうに思ってますので、そういった意味では、ぜひ皆さんと一

緒に、町民と一緒に安心・安全な、そして、いつまでもその地域に住み続けることができるそういったようなまちづくりをしていきたいというふうに考えます。